

経理 AI エージェントの現状と今後の展望に関する調査レポート



Genspark

Jul 25, 2025

要約

本レポートでは、経理 AI エージェントの定義から主要ツール、導入効果、課題、そして将来展望まで体系的に調査分析した結果をまとめています。

経理 AI エージェントは、単なる自動化ツールを超えて、目的を理解し自律的に業務を行う人工知能システムとして急速に進化しています。請求書処理や仕訳入力といった定型業務の自動化から始まり、現在では予測分析や不正検知といった高度業務にも活用範囲が拡大しています。

導入企業では平均して処理時間の 70～80%削減、ミス率の大幅低減といった効果が報告されており、単なる効率化ではなく、経理業務のあり方そのものを変革しつつあります。一方で、導入コスト、データセキュリティ、AI のブラックボックス化、人材育成といった課題も存在します。

今後は生成 AI の進化により、より高度な判断支援や自動レポートニング、予測分析が可能となり、経理部門は戦略的意思決定のパートナーとしての役割が強まると予測されます。経理担当者や公認会計士には AI リテラシーやデータ分析力といった新たなスキルが求められる時代へと移行しています。

1. 経理 AI エージェントの定義と基本概念

1.1 経理 AI エージェントとは

経理 AI エージェントとは、単に指示された作業をこなすだけでなく、業務の目的を理解して自律的に動き、複数のツールを統合的に活用して経理業務を自動化する人工知能システムです。従来の会計ソフトや RPA とは異なり、高度な機械学習技術を活用することで、文脈理解や非定型業務への対応が可能となっています [keihi.com](https://www.keihi.com)¹。

具体的な技術要素としては、以下が含まれます：

- AI-OCR（光学文字認識）

- 自然言語処理
- 機械学習
- 生成 AI
- パターン認識

これらの技術を統合し、会計ソフト、Slack、メール、CRM、ERP などの多様なシステムと連携することで、請求書受領から会計処理、支払い準備までの一連の業務を自動化します。

1.2 従来の会計システムとの違い

項目	従来の会計システム	経理 AI エージェント
処理方法	人間による入力と判断が必要	自律的な判断と処理が可能
対応業務	定型的な仕訳・集計が中心	非定型業務も含めた幅広い処理
学習能力	なし（固定ルール）	あり（データから学習し精度向上）
連携性	限定的な連携	多様なシステムとの統合的連携
分析能力	基本的な財務諸表出力	予測分析や異常検知も実施

2. 現在市場で提供されている主要なツールとサービス

2.1 経理 AI ツールの分類

経理 AI ツールは大きく「統合型プラットフォーム」と「特化型ソリューション」の 2 つに分類されます最適化 AI²。

1. 統合型プラットフォーム
 - 会計・経費精算・請求書管理など経理全体を一気通貫で自動化
 - 例：マネーフォワード、freee
2. 特化型ソリューション
 - 請求書・証憑処理の自動化など特定領域に特化
 - 例：TOKIUM、freee 支出管理（旧 sweep）

2.2 主要 AI 搭載会計ソフト

現在市場で提供されている主要な AI 搭載会計ソフトには以下のようなものがあります BOXIL Magazine³：

1. freee（フリー株式会社）
2. マネーフォワード クラウド会計（株式会社マネーフォワード）
3. かんたんクラウド会計（ミロク情報サービス）
4. 勘定奉行クラウド（株式会社オービックビジネスコンサルタント）
5. Galileopt DX（株式会社ミロク情報サービス）

6. MJSLINK DX 財務大将（株式会社ミロク情報サービス）

2.3 会計ソフトの AI 機能

現代の会計ソフトに搭載される AI 機能には主に以下のようなものがあります：

1. **自動仕訳**：取引内容を入力すると勘定科目をレコメンドし、ルーティン業務を自動化
2. **予測分析**：過去の実績データをもとに将来の財務状況を予測
3. **AI-OCR**：請求書や領収書をスキャンしてテキスト化し、会計ソフトに自動入力
4. **監査・決算のチェック**：AI が月次監査や決算の項目を自動検証し、不正や見落としを防止
5. **操作方法のサポート**：AI チャットボットでソフトの操作方法を 24 時間 365 日サポート

2.4 主要ツールの比較ポイント

経理 AI ツールを選定する際の主な比較ポイントには以下があります：

- ・ 入力媒体（紙中心かデジタル中心か）
- ・ 処理件数（月間・年間の請求書等処理量）
- ・ コストバランス（月額料金とトータル TCO）
- ・ AI 機能（AI-OCR、自動仕訳エンジン等の有無と精度）
- ・ システム連携（既存会計システムや金融機関連携の容易さ）
- ・ 現場負荷（設定工数・操作性・IT リテラシー負荷）
- ・ 導入事例による工数削減効果と ROI

3. 経理 AI による自動化可能な業務内容

3.1 自動化可能な業務範囲と自動化率

経理 AI で自動化できる主な業務範囲は、以下の 5 カテゴリに分類できます [keihi.com](https://www.keihi.com)⁴：

1. **データ入力・仕訳**（約 85% 自動化／月 25 時間削減）
 - AI-OCR で証憑を読み取り、仕訳エンジンが勘定科目を提案
 - スキャナやモバイルアプリ→レイアウト解析→機械学習による突合→ルールエンジン補完
2. **経費精算・立替金精算**（約 75% 自動化／月 15 時間削減）
 - スマホ撮影＋クラウドワークフローで領収書読み取り
 - AI による社内規程チェック→承認キューへ
 - 交通系 IC カード履歴の自動マージ
3. **請求書処理・支払管理**（約 80% 自動化／月 48 時間削減）

- PDF・XML・EDI を AI-OCR または構造化データとして取り込み、ERP へ自動連携
 - PEPPOL 対応でフォーマット統一
 - 海外取引や個別契約には人による例外処理が残る
4. **決算書作成・レポート**（約 60%自動化／月 12 時間削減）
- BI ツールと連携し、AI が異常値検出とテンプレート生成
 - 生成 AI がドラフト文章を作成、人が最終表現と監査資料をチェック
5. **非定型・判断業務**（～20%自動化）
- 減損判定、監査対応、内部統制の最終承認は人が主導
 - AI は資料検索やチェックリスト生成の補助に限定

3.2 生成 AI の具体的活用事例

生成 AI は経理業務の様々な場面で活用されています [note.com](#)⁵：

1. **仕訳作成（自動仕訳）**
 - 企業：花王ビジネスアソシエ
 - ソリューション：自動仕訳システム「Remota」
 - 方法：OCR で請求書・領収書を読み取り、生成 AI が文脈を理解して勘定科目を選択
 - 効果：仕訳作成時間の大幅短縮、人的ミス削減、税制コンプライアンス強化
2. **請求書処理（支払・債務管理）**
 - 企業：ZOZO
 - ソリューション：クラウド請求書処理「sweep」
 - 方法：OCR と生成 AI の組み合わせで紙の請求書をスキャン→自動入力・整理
 - 効果：月次締め処理時間を 7 営業日→3.5 営業日に短縮、入力ミス削減
3. **決算・財務報告**
 - 企業：マネーフォワード
 - ソリューション：マネーフォワード クラウド会計 Plus for GPT
 - 方法：会計データを AI が分析し、レポート化・異常値検出
 - 効果：決算業務の速度・精度向上、不正取引・会計ミスの早期発見
4. **税務対応**
 - 企業：神戸市
 - ソリューション：税務相談ロボット（ChatGPT 活用）
 - 方法：職員の税務質問に AI が回答
 - 効果：問い合わせ対応の迅速化、職員負担軽減、税制変更対応力向上
5. **経費精算**

- 企業：明治安田生命
- ソリューション：経費精算システム「SAPPHIRE」
- 方法：申請データを AI が分析し、不正リスク検知・経費分類提案
- 効果：年間 5,300 時間の工数削減、二重精算・不適切申請防止

3.3 経理財務現場での日常的活用方法

経理財務の現場では、生成 AI が様々な形で日常業務に活用されています [note.com⁶](https://note.com/ai_2023)：

1. 専門家の簡易代替品として
 - 勘定科目の選定
 - 契約書のリーガルチェック
 - 税理士回答へのセカンドオピニオン
 - 国税庁サイトの要約
2. コミュニケーション補助
 - 専門家メールの平易化
 - 公式文書・メール作成
 - 部下向け返信文の作成
 - 採用面接用質問作成
3. 分析下準備
 - 競合 IR 資料の要約
 - 月次決算データの異常値検出
4. 文字起こしと要約
 - 会議録音の文字起こし&要約
 - マニュアル動画の要約・英訳
 - YouTube 動画の要約
 - 無料セミナー録画の要約

4. 経理 AI 導入の効果と事例分析

4.1 導入による具体的効果

経理 AI 導入による具体的な効果は以下のような形で現れています [keihi.com⁷](https://www.keihi.com/)：

1. 請求書処理の自動化
 - AI-OCR+RPA でスキャンから会計システム連携まで自動化し、処理時間を 80%以上削減
2. 仕訳・消込作業の自動化
 - 過去データ学習による勘定科目自動推論と入金データ照合で、消込作業時間を 70%削減（花王ビジネスアソシエ株式会社導入事例）

3. 予実管理・資金繰り予測

- AI ベースの分析ツールが過去会計・販売・市場データを学習し、予算差異分析と数ヶ月先の資金繰りシミュレーションを実行し、リスクを警告

4.2 導入事例と成果

1. ZOZO の事例

- 導入ツール：クラウド請求書処理「sweep」
- 成果：経費精算プロセスに AI を全面導入し、99%自動化率を達成
- 効果：月次締め処理時間を 7 営業日から 3.5 営業日に短縮

2. 花王ビジネスアソシエの事例

- 導入ツール：AI 自動仕訳システム「Remota」、AI 請求書処理システム「Bill One」
- 成果：消込作業時間を 70%削減
- 効果：経理部門の業務量が約 3 分の 1 に減少

3. 中堅メーカーの事例

- 導入ツール：AI-OCR + 自動仕訳
- 成果：RPA のみでは一日 200 件だった処理能力が大幅向上
- 効果：処理時間 80%削減、データ入力ミスゼロを実現

4.3 費用対効果と投資回収期間

経理 AI 導入の費用対効果は、次のとおり概算できます [keihi.com](https://www.keihi.com)⁴：

1. ROI 計算式：

- $$\text{ROI}(\%) = \{ \text{年間削減人件費} + \text{年間削減外注費} - \text{年間運用費} - \text{初期費用償却分} \} \div \text{初期費用} \times 100$$

2. 中堅企業（仕訳月 6,000 件）の例：

- 入力時間を 80%削減し、人件費で年間約 300 万円を削減
- 導入 2 年目に黒字化

3. 投資回収期間の目安：

- RPA 単体導入：18 か月
- AI 連携：12 か月
- 生成 AI 拡張後：9 か月

5. 経理 AI 導入における課題と障壁

5.1 導入・運用における主な課題

経理 AI 導入には以下のような課題が存在します [keihi.com](https://www.keihi.com)⁷：

1. 初期導入費用と運用コストの高さ

- クラウド／オンプレミス共に初期費用と月額利用料が発生
- 費用対効果の検証が必要

2. AI 過信とブラックボックス化リスク

- 判断根拠が把握しにくく、誤出力への対応や監査説明が課題
- 特に税務申告や決算報告など正確性が求められる業務ではリスクが高い

3. 業務フロー再設計と人材育成

- 既存プロセスの見直し
- 従業員へのトレーニングや新スキル習得が必要

4. セキュリティとデータプライバシー

- 機密情報を扱うため、暗号化やアクセス制御など厳格な対策が必要
- データプライバシーに関する法令遵守

5.2 既存システムとの連携課題

経理 AI エージェント導入において、既存システムとの連携には以下のような課題があります [FAST Accounting Blog](#)⁸：

1. データ活用と IT リテラシー不足

- ERP データの散在や品質問題
- 分析ツール・スキル不足により AI の燃料となるデータを十分に活用できない

2. システム統合の技術的課題

- データフォーマットの不一致
- API の非対応
- 事前の連携テスト実施が必要

5.3 生成 AI 導入の具体的課題と対策

生成 AI を経理業務に導入する際の具体的な課題と対策は以下の通りです [note.com](#)⁵：

1. 誤情報（ハルシネーション）のリスク

- 対策：人間が最終判断し、AI 出力を監査する体制を構築

2. データ機密性・セキュリティの確保

- 対策：機密データを外部 AI に入力しない／オンプレミス型 AI 導入／アクセス管理とログ監視の徹底

3. 法規制・コンプライアンスの遵守

- 対策：AI モデルの定期アップデート／税理士・会計士による定期的なチェック

4. 既存システムとの統合問題

- 対策：事前の連携テスト実施／カスタマイズ可能な AI の選定／API やデータ変換ツールの導入

5. AI 運用スキル・人材育成の必要性

- 対策：経理担当者向け AI 研修／プロンプト設計スキル研修／AI と人間の役割分担の明確化

6. 経理 AI の技術的進化と今後の展望

6.1 技術進化の方向性

経理 AI の技術は以下のような方向に進化すると予測されています [keihi.com](https://www.keihi.com/)⁷：

1. 自動化から戦略的パートナーへの進化
 - 定型作業の高速処理にとどまらず、経営判断支援や内部統制強化に寄与する方向へシフト
2. 技術統合による総合ソリューション化
 - AI-OCR、RPA、機械学習、自然言語処理などを組み合わせ、業務全体をカバーするプラットフォームへ発展
3. 高度分析・予測機能の拡充
 - 大規模データ分析、売上予測、資金繰りシミュレーションなど、先読み型の経営サポート機能が標準化
4. 人-AI 協働の深化
 - 従来の記録・計算業務から、AI 出力の検証・分析・提案業務へ経理担当者の役割がシフト
 - 人材要件もデータリテラシー重視へ進化

6.2 生成 AI による将来的可能性

生成 AI の進化により、経理業務には以下のような可能性が開けると予測されています最適化 AI²：

1. 自律的適応技術の深化
 - AI-OCR から生成 AI や機械学習を組み合わせた自律的改善機能の普及
2. バックオフィスの中核化
 - リアルタイム経営管理や戦略的意思決定のプラットフォーム化
3. 全件監査・不正検知
 - AI による規程違反監視や不正検知を全証憑に拡大
4. 人間と AI の役割分担
 - ルーチン自動化に加え、高度判断・提案業務を担う"戦略的ファイナンス・パートナー"化

5. リスキリング促進

- AI リテラシー・データ分析力向上を目的とした社内教育と支援制度の定着

6.3 将来予測される高度業務の可能性

将来的に経理 AI が担うことが予測される高度業務には以下のようなものがあります NTT ファイナンス [9](#)：

1. 戦略的財務分析

- 財務データの詳細な分析に基づく経営判断の支援
- 事業環境や過去実績を踏まえた予算策定シミュレーションの実施

2. リスクマネジメント高度化

- 法令改正や市場変動を想定したリスクマネジメント
- 事前予測によるリスク回避策の提案

3. デジタル化推進

- 他部門と連携したデジタル化推進や業務プロセス改善
- 経理部門が DX 推進拠点となり、他部門との連携による企業全体のデジタル化をリード

4. 戦略的経営参画

- 戦略的な資金調達・経営企画への参画
- 財務視点からの事業戦略立案支援

7. 経理専門職への影響とスキル変化

7.1 経理 AI エージェントによる人材への影響

経理 AI エージェント導入による経理人材への影響（戦略的シフト）は以下の 4 点に整理できます FAST Accounting Blog [8](#)：

1. オペレーショナル業務からアナリティカル業務へ

- 定型データ入力や処理が AI に自動化され、経理担当者はデータ分析や洞察抽出に集中できる

2. 過去志向から未来志向へ

- AI による予測分析・シミュレーション機能を活用し、将来の事業環境を予測して戦略提言を行う役割を担う

3. 受動的対応から能動的提案へ

- AI が異常値検知やリスク兆候を通知し、経理担当者は積極的に課題を発見しソリューションを提案する

4. サイロ型専門家からビジネスパートナーへ

- 部門間データ連携が進み、経理担当者は他部門や経営層と連携し、ビジネス

戦略を支える参謀役として活動する

7.2 公認会計士のキャリアパス変化

AI の進展に伴い、公認会計士のキャリアパスは以下のように変化していきます turns.jp¹⁰：

1. 監査法人でのキャリアパスの変化

- 従来の定型的監査に加え、AI を活用した新監査手法の開発・導入支援を担う
- 中堅以降は AI による監査品質管理や新サービスラインの企画・立案に携わる

2. 事業会社での役割進化

- 経理・財務部門の AI システム導入推進、データ分析による経営戦略立案支援
- CFO 候補として、AI を用いた経営判断・事業戦略策定に深く関与

3. コンサルティングファームへの転身

- 財務・会計知識と AI 活用能力を組み合わせ、デジタルトランスフォーメーションコンサルを実施
- 大規模デジタル化プロジェクトや業界特化型デジタル戦略の専門家として活躍

4. スタートアップでの新たな挑戦

- フィンテック等ベンチャーの CFO や事業開発役員として、AI サービスの企画・資金調達をリード
- 自ら起業し、AI を用いた会計・財務ソリューションの提供者となる

7.3 AI 時代に求められる新たなスキル

AI 時代に公認会計士や経理担当者に求められるスキルは以下の 5 つです turns.jp¹¹：

1. データ分析スキル

- 基本統計解析からビッグデータ分析まで
- Excel、Tableau、Power BI、SQL、Python 等のツール活用

2. プログラミングスキル

- Python、R の基礎知識による分析・自動化
- RPA（ロボティック・プロセス・オートメーション）の理解

3. コミュニケーションスキル

- 非技術者向けの技術説明
- クライアントニーズの引き出し、チーム内協働促進

4. 人工知能に関する知識

- 機械学習、自然言語処理の会計・監査応用

- AI 導入リスク評価、内部統制構築、AI 倫理・データセキュリティ

5. イノベーションを促す力

- AI を活用した新監査手法や財務分析サービスの開発
- 異分野協働による新ビジネスモデル構想

8. 主要経理 AI ソリューションの比較

8.1 統合型プラットフォームと特化型ソリューション

経理 AI ツールは大きく「統合型プラットフォーム」と「特化型ソリューション」の 2 つに分類されます最適化 AI²：

分類	特徴	代表例	適合企業
統合型プラットフォーム	会計・経費精算・請求書管理など経理全体を一気通貫で自動化	マネーフォワード、freee	中小企業、スタートアップ
特化型ソリューション	請求書・証憑処理の自動化に特化し、AI+オペレーターで高精度実現	TOKIUM、freee 支出管理	大企業、処理件数の多い企業

8.2 主要 AI ツールの機能比較

主要な AI 搭載会計ソフトの機能比較は以下の通りです：

ツール名	AI-OCR	自動仕訳	予測分析	不正検知	操作サポート	クラウド対応
freee	✓	✓	✓	✓	✓	✓
マネーフォワード	✓	✓	✓	✓	✓	✓
かんたんクラウド会計	✓	✓	△	△	✓	✓
勘定奉行クラウド	✓	✓	✓	✓	✓	✓
Galileopt DX	✓	✓	✓	✓	△	✓
MJSLINK DX	✓	✓	✓	✓	△	✓

※ ✓：対応、△：一部対応

8.3 導入支援制度と補助金

経理 AI ツール導入を支援する主な補助金制度として、「IT 導入補助金」があります ai-soumu¹²：

IT 導入補助金の概要：

- 中小企業・小規模事業者が新規に IT システムを導入する際、クラウド（SaaS）サブスクリプション料金 2 年分および初期設定費用 2 年分を含む導入経費の一部を国が補助する制度

- 対象となる経理ツールは「会計システム（P-04）」に分類される製品

補助対象となる機能：

1. 仕訳、各種出納帳、総勘定元帳、試算表作成
2. 財務三表（B/S、P/L、C/F）の作成
3. 経費精算
4. 税務申告支援
5. 管理会計
6. 減価償却計算

申請プロセス：

1. 事前準備（gBizID プライム取得、各種証明書類）
2. 共同申請（ユーザーとベンダーが共同で申請）
3. 審査・採択後、実績報告、入金

9. 経理 AI エージェントの強みと限界

9.1 現状の強み

現在の経理 AI エージェントの主な強みは以下の通りです：

1. **業務効率の飛躍的向上**
 - 定型的な反復作業（仕訳作成、請求書処理、経費精算など）を短時間で自動処理
 - 決算業務のレポート作成を数日→数時間に短縮
2. **エラー削減と精度向上**
 - 過去データ学習によりヒューマンエラーを抑制
 - 仕訳作成でより適切な勘定科目を自動選択し、確認工数を削減
3. **コスト削減**
 - 人件費の大幅削減（中堅企業で年間約 300 万円）
 - 外注費や関連コストの低減
4. **リアルタイムなデータ分析**
 - 常時データモニタリングによる異常検知
 - 迅速な経営判断の支援
5. **法令遵守と内部統制の強化**
 - 一貫したルール適用によるコンプライアンス強化
 - 不正行為の自動検出と防止

9.2 現状の限界

一方で、現状の経理 AI エージェントには以下のような限界があります：

1. **判断を要する複雑な業務への対応**
 - 非定型的な取引や特殊な会計処理への対応は限定的
 - 人間による最終判断や監督が必要
2. **AIの「ハルシネーション」問題**
 - 学習データにない状況で誤った回答を生成するリスク
 - 特に税務処理や法令対応で誤判断の危険性
3. **システム連携の制約**
 - レガシーシステムとの連携に技術的課題
 - データフォーマットの非互換性問題
4. **セキュリティとデータプライバシー**
 - 機密性の高い財務データの取り扱いリスク
 - クラウドベースのAIサービス利用におけるセキュリティ懸念
5. **導入・運用コスト**
 - 初期導入費用と継続的な運用コストの負担
 - 投資回収期間の見極めが必要

9.3 将来の可能性

将来的な経理AIエージェントの可能性には以下のようなものがあります：

1. **戦略的意思決定支援の高度化**
 - 複雑な経営環境を分析し、最適な財務戦略を提案
 - シナリオベースの予測モデルによる意思決定支援
2. **完全自律型処理の実現**
 - 特殊な例外処理も含めた自律的な判断と処理
 - 人間の承認を最小限にした自動処理範囲の拡大
3. **クロスファンクショナルな連携**
 - 営業、マーケティング、SCMなど他部門データとの連携強化
 - 全社的な経営インテリジェンスの中核へ
4. **グローバル対応の高度化**
 - 多言語・多通貨・多税制への自動対応
 - 国際的な会計基準の変更への柔軟な適応
5. **継続的学習と自己進化**
 - 使用実績からの自律的な学習と精度向上
 - 組織特有のパターンや慣行への適応能力の強化

10. 結論と提言

10.1 経理 AI エージェントの現状まとめ

経理 AI エージェントは、単なる自動化ツールではなく、目的を理解して自律的に業務を行い、複数のツールを統合的に活用する知的システムとして急速に進化しています。AI-OCR、自然言語処理、機械学習、生成 AI などの技術を駆使して、請求書処理、仕訳入力、経費精算、勘定照合などの業務を高い精度で自動化することが可能になっています。

現在市場には、会計・経費精算・請求書管理など経理全体を一気通貫で自動化する「統合型プラットフォーム」と、請求書・証憑処理など特定領域に特化した「特化型ソリューション」が存在し、企業規模や業務特性に応じた選択が可能です。

導入企業では、業務時間の 70～80%削減、人的ミスの大幅低減、コンプライアンス強化などの効果が報告されており、ROI も導入 1～2 年で実現できるケースが増えています。

10.2 今後の展望と課題

今後の展望として、生成 AI の進化により、より高度な判断支援、戦略的提案、予測分析が可能になると予測されます。経理 AI エージェントは単なる「作業の自動化ツール」から「戦略的パートナー」へと進化し、経理部門の役割そのものを変革していくでしょう。

一方で、誤情報（ハルシネーション）のリスク、データセキュリティの確保、法規制・コンプライアンスの遵守、既存システムとの統合、人材育成など、解決すべき課題も多く残されています。

10.3 企業への提言

経理 AI エージェントの導入を検討する企業への提言は以下の通りです：

1. 段階的アプローチの採用
 - 一気に全システム導入ではなく、小規模な PoC（概念実証）から始める
 - 「まずは一部部署や請求書 AI-OCR のみで PoC（効果検証）」→「問題なければ本格導入」へと段階的に進める
2. 明確な目標設定と効果測定
 - 単なる「AI 導入」ではなく、具体的な目標（工数削減率、エラー削減率など）を設定
 - 導入前後での定量的な効果測定を実施
3. 業務プロセスの再設計
 - AI の導入を機に、既存の業務プロセスを根本から見直す
 - AI と人間の役割分担を明確にした新たなワークフローの構築
4. 人材育成の強化
 - 経理担当者向けの AI 研修・データリテラシー教育の実施
 - 高度な分析・判断スキルの育成による「戦略的ファイナンス・パートナー」

への転換支援

5. セキュリティとコンプライアンスの徹底

- データセキュリティポリシーの明確化と運用ルールの確立
- 定期的な AI モデルのアップデートと監査体制の構築

6. 補助金・助成金の活用

- IT 導入補助金などの支援制度を積極的に活用し、初期投資負担を軽減
- 人材育成関連の助成金も併せて検討

7. 長期的視点での投資判断

- 単なるコスト削減ではなく、経理部門の戦略的価値向上としての投資と捉える
- 3～5 年の中長期的な ROI 視点での判断

経理 AI エージェントは、単なる業務効率化ツールではなく、企業の財務経営の質を根本から変革する可能性を秘めています。適切な導入と活用により、経理部門は「コストセンター」から「価値創造センター」へと進化し、企業全体の競争力強化に貢献することが期待されます。

参考文献：

1. keihi.com「経理 AI エージェントとは」[1](#)
 2. FAST Accounting Blog「経理 AI エージェント導入で加速する経理人材の戦略的シフト」[8](#)
 3. keihi.com「経理業務で AI を活用するには」[4](#)
 4. keihi.com「経理業務は AI でどう変わる？」[7](#)
 5. ABeam Consulting「AI 時代における経理・財務部門のあり方」[13](#)
 6. note.com「経理×生成 AI の最前線」[5](#)
 7. note.com「経理財務の現場で生成 AI をどう活用しているか」[6](#)
 8. BOXIL Magazine「AI を搭載した会計ソフト 6 選」[3](#)
 9. turns.jp「公認会計士のキャリアパスはこう変わる」[10](#)
 10. 最適化 AI「経理 AI 完全ガイド」[2](#)
 11. ai-soumu「IT 導入補助金を徹底解説」[12](#)
 12. NTT ファイナンス「経理業務における AI の現状・展望」[9](#)
-

Appendix: Supplementary Video Resources



経理・財務向け AI エージェント機能を搭載したクラウドを ...

2 days ago



AI エージェント完全に理解した ～大切なことは全部 Devin が ...

May 19, 2025



AI エージェントとは？AI ワークフロー・ChatGPT との違い ...

Jan 3, 2025

もっと詳しく

1

www.keihi.com

2

saiteki-ai.com

3

boxil.jp

4

www.keihi.com

5

note.com

6

note.com

7

www.keihi.com

8

www.fastaccounting.jp

9

www.ntt-finance.co.jp

10

[turns.jp](#)

11

[turns.jp](#)

12

[ai-soumu.com](#)

13

[www.abeam.com](#)